【専門分野】　　【理学療法学科】

科目名	理学療法研究法Ⅱ						
担当講師	菊池賢汰						
実務経験の概要	理学療法士　医療施設・スポーツ施設において実務経験，各種学会で発表・論文執筆経験を有する．						
履修年次	3	単位数	2	時間数	60	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/実習/グループワーク						

授業概要

理学療法における研究活動の流れを演習を通じて学修します．

学修到達目標

1．理学療法における基本的研究活動を実践できる．
2．学内研究発表会において自身の研究成果を発表できる．
3．自身の研究結果を模擬論文化できる．

授　業　計　画

第1回	理学療法におけるエビデンスの活用と実践①
第2回	理学療法におけるエビデンスの活用と実践②
第3回	研究計画の見直し
第4回	研究計画の見直し（演習）
第5回	研究計画書の修正（演習）
第6回	予備研究の基礎的知識①
第7回	予備研究の基礎的知識②
第8回	予備研究の実践①（演習：データの取得）
第9回	予備研究の実践②（演習：データの取得）
第10回	予備研究の実践②（演習：統計解析）
第11回	統計解析の実践①（差の検定）
第12回	統計解析の実践②（分散分析）
第13回	統計解析の実践③（相関分析）
第14回	統計解析の実践④（単回帰分析）
第15回	統計解析の実践⑤（重回帰分析）
第16回	統計解析の実践⑥（多重ロジスティック分析）
第17回	統計解析の実践⑦（カイ二乗検定）
第18回	データ取得時の留意点①
第19回	データ取得時の留意点②
第20回	研究発表に向けての準備
第21回	論文執筆における基礎的知識①
第22回	論文執筆における基礎的知識②
第23回	研究発表準備と論文作成①（演習）
第24回	研究発表準備と論文作成②（演習）
第25回	研究発表準備と論文作成③（演習）
第26回	研究発表準備と論文作成④（演習）
第27回	研究発表準備と論文作成⑤（演習）
第28回	研究発表会①

第29回	研究発表会②
第30回	研究発表会③

評価方法

研究発表会における発表内容（50%）論文内容（50%）

教科書

プリント教材

参考図書･文献

最新理学療法学講座 理学療法研究法（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

実際の研究活動を行いますので，日常の疑問に目を向けるとともに論文を日頃から読む習慣をつけるようにしてください.

【専門分野】 【理学療法学科】

科目名	リスクマネジメント論						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士，医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する．						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/演習						

授業概要

リスクの概念を理解し，理学療法が行われるあらゆる場面でのマネジメントを講義・演習を通じて長短期の視点から学修します．

学修到達目標

1.理学療法実践におけるリスクマネジメントを理解できる．
2.理学療法業務時のリスクを想定し，対処できる．

授　業　計　画

第1回 リスクとは
第2回 医療事故を法的責任
第3回 リスクマネジメントの必要性
第4回 インシデント・アクシデント
第5回 人的リスク・環境リスク
第6回 リスクの予測
第7回 医療施設におけるリスクマネジメント
第8回 介護保険施設におけるリスクマネジメント
第9回 在宅におけるリスクマネジメント
第10回 神経系障害におけるリスクマネジメント
第11回 神経系障害におけるリスクマネジメント（演習）
第12回 運動器障害におけるリスクマネジメント
第13回 運動器障害におけるリスクマネジメント（演習）
第14回 内部障害におけるリスクマネジメント
第15回 内部障害におけるリスクマネジメント（演習）

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書･文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

リスクマネジメントにおいては予測の重要性が問われます．予測をするためには背景・基礎となる知識が重要なポイントとなりますので，これまで学習した内容を十分に復習しておいてください．

【専門分野】　　【理学療法学科】

科目名	理学療法評価学Ⅵ						
担当講師	菊池賢汰　戸来幸恵　及川龍彦　長野由紀江						
実務経験の概要	菊池賢汰　：理学療法士　医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する. 戸来幸恵　：理学療法士　医療施設・障がい児施設において実務経験を有する. 及川龍彦　：理学療法士　医療施設・老人保健施設において実務経験を有する. 長野由紀江　：理学療法士　医療施設において実務経験を有する.						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義/実技/実習/オムニバス						

授業概要

グループワークや自己学習を通じ、各種疾患への理学療法提供に至る臨床思考過程を学修します.

学修到達目標

1．臨床思考過程の流れを経験し、理解する.
2．各分野における臨床思考過程を経験する.

授　業　計　画

第1回	骨関節疾患における臨床推論①	菊池賢汰
第2回	骨関節疾患における臨床推論②	菊池賢汰
第3回	骨関節疾患における臨床推論③	菊池賢汰
第4回	骨関節疾患における臨床推論④	菊池賢汰
第5回	骨関節疾患における臨床推論⑤	菊池賢汰
第6回	脳血管疾患における臨床推論①	戸来幸恵
第7回	脳血管疾患における臨床推論②	戸来幸恵
第8回	脳血管疾患における臨床推論③	戸来幸恵
第9回	脳血管疾患における臨床推論④	戸来幸恵
第10回	脳血管疾患における臨床推論⑤	戸来幸恵
第11回	内部障害系疾患における臨床推論①	及川龍彦
第12回	内部障害系疾患における臨床推論②	及川龍彦
第13回	内部障害系疾患における臨床推論③	及川龍彦
第14回	内部障害系疾患における臨床推論④	及川龍彦
第15回	内部障害系疾患における臨床推論⑤	及川龍彦
第16回	発達障害における臨床推論①	戸来幸恵
第17回	発達障害における臨床推論②	戸来幸恵
第18回	発達障害における臨床推論③	戸来幸恵
第19回	発達障害における臨床推論④	戸来幸恵
第20回	神経筋疾患における臨床推論①	長野由紀江
第21回	神経筋疾患における臨床推論②	長野由紀江
第22回	神経筋疾患における臨床推論③	長野由紀江
第23回	神経筋疾患における臨床推論④	長野由紀江

評価方法

課題提出

教科書

必要に応じてプリント教材

参考図書･文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

各理学療法学の仕上げもしくは補足的学修となります．最終的には個人の能力として身につける必要がありますので十分な復習を行なってください．

【専門分野】　　【理学療法学科】

科目名	骨関節系理学療法学Ⅱ						
担当講師	菊池賢汰						
実務経験の概要	理学療法士　医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する.						
履修年次	3	単位数	3	時間数	90	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/実習/グループワーク						

授業概要

講義やグループワークを通じ，骨関節領域における病期毎の理学療法を学修します.

学修到達目標

1．骨関節領域における病期毎の目的を説明できる.
2．骨関節領域における理学療法の概要を説明できる.
3．骨関節領域のおける基本的な理学療法技術を模擬患者へ実施できる.

授　業　計　画

第1回	肩関節疾患における急性期理学療法
第2回	肩関節疾患における回復期理学療法
第3回	肩関節疾患における生活期理学療法
第4回	肩関節疾患における理学療法評価・治療（演習）
第5回	肩関節疾患における理学療法（グループワーク）
第6回	肩関節疾患における理学療法（発表・ディスカッション）
第7回	肘関節疾患における急性期理学療法
第8回	肘関節疾患における回復期理学療法
第9回	肘関節疾患における生活期理学療法
第10回	肘関節疾患における理学療法評価・治療（演習）
第11回	肘関節疾患における理学療法（グループワーク）
第12回	肘関節疾患における理学療法（発表・ディスカッション）
第13回	手関節疾患における急性期理学療法
第14回	手関節疾患における回復期理学療法
第15回	手関節疾患における生活期理学療法
第16回	手関節疾患における理学療法評価・治療（演習）
第17回	手関節疾患における理学療法（グループワーク）
第18回	手関節疾患における理学療法（発表・ディスカッション）
第19回	股関節疾患における急性期理学療法
第20回	股関節疾患における回復期理学療法
第21回	股関節疾患における生活期理学療法
第22回	股関節疾患における理学療法評価・治療（演習）
第23回	股関節疾患における理学療法（グループワーク）
第24回	股関節疾患における理学療法（発表・ディスカッション）
第25回	膝関節疾患における急性期理学療法
第26回	膝関節疾患における回復期理学療法
第27回	膝関節疾患における生活期理学療法
第28回	膝関節疾患における理学療法評価・治療（演習）
第29回	膝関節疾患における理学療法（グループワーク）
第30回	膝関節疾患における理学療法（発表・ディスカッション）

第31回	足関節疾患における急性期理学療法
第32回	足関節疾患における回復期理学療法
第33回	足関節疾患における生活期理学療法
第34回	足関節疾患における理学療法評価・治療（演習）
第35回	足関節疾患における理学療法（グループワーク）
第36回	足関節疾患における理学療法（発表・ディスカッション）
第37回	脊椎疾患における急性期理学療法
第38回	脊椎疾患における回復期理学療法
第39回	脊椎疾患における生活期理学療法
第40回	脊椎疾患における理学療法評価・治療（演習）
第41回	脊椎疾患における理学療法（グループワーク）
第42回	脊椎疾患における理学療法（発表・ディスカッション）
第43回	関節リウマチにおける理学療法
第44回	関節リウマチにおける理学療法（グループワーク）
第45回	関節リウマチにおける理学療法（発表・ディスカッション）

評価方法

筆記試験

教科書

運動器障害理学療法学テキスト改訂第３版（南江堂）プリント教材

参考図書･文献

筋骨格系のキネシオロジー原著第３版（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

本講義では解剖・生理・運動学の基礎的知識に加え，２年次の講義理解が重要となります．十分に復習した上で講義に臨んでください．

【専門分野】 【理学療法学科】

科目名	内部障害系理学療法学Ⅱ						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士，医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する．						
履修年次	3	単位数	3	時間数	90	開講時期	通年
授業形態	講義/実技/演習						

授業概要

講義やグループワークを通じ，内部障害領域における病期毎の理学療法を学修します．

学修到達目標

1．内部障害領域における理学療法の目的を説明できる．
2．内部障害領域の理学療法の概要を説明できる．
3．内部障害領域における理学療法技術を模擬患者へ実施できる．

授　業　計　画

第1回	呼吸器疾患における急性期理学療法①（概要）
第2回	呼吸器疾患における急性期理学療法②（医学的介入）
第3回	呼吸器疾患における急性期理学療法③（演習）
第4回	呼吸器疾患における急性期理学療法④（演習）
第5回	呼吸器疾患における急性期理学療法⑤（理学療法評価）
第6回	呼吸器疾患における急性期理学療法⑥（治療・指導）
第7回	呼吸器疾患における回復期理学療法①（概要）
第8回	呼吸器疾患における回復期理学療法②（医学的介入）
第9回	呼吸器疾患における回復期理学療法③（演習）
第10回	呼吸器疾患における回復期理学療法④（演習）
第11回	呼吸器疾患における回復期理学療法⑤（評価・治療・指導）
第12回	呼吸器疾患における生活期理学療法①（概要）
第13回	呼吸器疾患における生活期理学療法②（演習）
第14回	呼吸器疾患における生活期理学療法③（演習）
第15回	循環器疾患における急性期理学療法①（概要）
第16回	循環器疾患における急性期理学療法②（医学的介入）
第17回	循環器疾患における急性期理学療法③（演習）
第18回	循環器疾患における急性期理学療法④（演習）
第19回	循環器疾患における急性期理学療法⑤（理学療法評価）
第20回	循環器疾患における急性期理学療法⑥（治療・指導）
第21回	循環器疾患における回復期理学療法①（概要）
第22回	循環器疾患における回復期理学療法②（医学的介入）
第23回	循環器疾患における回復期理学療法③（演習）
第24回	循環器疾患における回復期理学療法④（演習）
第25回	循環器疾患における回復期理学療法⑤（評価・治療・指導）
第26回	循環器疾患における生活期理学療法①（概要）
第27回	循環器疾患における生活期理学療法②（演習）
第28回	循環器疾患における生活期理学療法③（評価・治療・指導）

第29回	代謝疾患における初期理学療法①（概要）
第30回	代謝疾患における初期理学療法②（医学的治療）
第31回	代謝疾患における初期理学療法③（演習）
第32回	代謝疾患における初期理学療法④（演習）
第33回	代謝疾患における初期理学療法⑤（評価・治療・指導）
第34回	代謝疾患における管理と理学療法①（概要）
第35回	代謝疾患における管理と理学療法②（演習）
第36回	代謝疾患における管理と理学療法③（演習）
第37回	代謝疾患における管理と理学療法④（演習）
第38回	代謝疾患における管理と理学療法⑤（管理の実際）
第39回	代謝疾患における日常生活の維持①（概要）
第40回	代謝疾患における日常生活の維持②（演習）
第41回	代謝疾患における日常生活の維持③（演習）
第42回	代謝疾患における日常生活の維持④（演習）
第43回	がんの理学療法①
第44回	がんの理学療法②
第45回	がんの理学療法③

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書･文献

内部障害理学療法学テキスト（南江堂）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

生理学的知識が基本になるほか，病態の十分な理解が必要となりますので十分な予習をしてください.

【専門分野】　　【理学療法学科】

科目名	中枢神経系理学療法学Ⅱ						
担当講師	戸来　幸恵						
実務経験の概要	理学療法士　医療施設・障がい児施設において実務経験を有する.						
履修年次	3	単位数	3	時間数	90	開講時期	前後期
授業形態	講義/実技/演習						

授業概要

講義やグループワークを通じ，中枢神経障害領域における病期毎の理学療法を学修します.

学修到達目標

1．中枢神経障害領域における理学療法の目的を説明できる.
2．中枢神経障害領域の理学療法の概要を説明できる.
3．中枢神経障害領域における理学療法技術を模擬患者へ実施できる.

授　業　計　画

第1回	脳血管疾患における急性期理学療法①（概要）
第2回	脳血管疾患における急性期理学療法②（医学的介入）
第3回	脳血管疾患における急性期理学療法③（演習）
第4回	脳血管疾患における急性期理学療法④（演習）
第5回	脳血管疾患における急性期理学療法⑤（理学療法評価）
第6回	脳血管疾患における急性期理学療法⑥（治療・指導）
第7回	脳血管疾患における急性期理学療法⑦（治療・指導）
第8回	脳血管疾患における急性期理学療法⑧（リスク管理）
第9回	脳血管疾患における回復期理学療法①（概要）
第10回	脳血管疾患における回復期理学療法②（医学的介入）
第11回	脳血管疾患における回復期理学療法③（演習）
第12回	脳血管疾患における回復期理学療法④（演習）
第13回	脳血管疾患における回復期理学療法⑤（理学療法評価）
第14回	脳血管疾患における回復期理学療法⑥（治療・指導）
第15回	脳血管疾患における回復期理学療法⑦（治療・指導）
第16回	脳血管疾患における回復期理学療法⑧（治療・指導）
第17回	脳血管疾患における回復期理学療法⑨（装具療法）
第18回	脳血管疾患における回復期理学療法⑩（退院時支援）
第19回	脳血管疾患における生活期理学療法①（概要）
第20回	脳血管疾患における生活期理学療法②（演習）
第21回	脳血管疾患における生活期理学療法③（演習）
第22回	脳血管疾患における生活期理学療法④（治療・指導）
第23回	脳血管疾患における生活期理学療法⑤（治療・指導）
第24回	脳血管疾患における理学療法まとめ①
第25回	脳血管疾患における理学療法まとめ②
第26回	脊髄損傷における急性期理学療法①（概要）
第27回	脊髄損傷における急性期理学療法②（医学的介入）
第28回	脊髄損傷における急性期理学療法③（演習）

第29回	脊髄損傷における急性期理学療法④（演習）
第30回	脊髄損傷における急性期理学療法⑤（理学療法評価）
第31回	脊髄損傷における急性期理学療法⑥（治療・指導）
第32回	脊髄損傷における急性期理学療法⑦（リスク管理）
第33回	脊髄損傷における回復期理学療法①（概要）
第34回	脊髄損傷における回復期理学療法②（医学的介入）
第35回	脊髄損傷における回復期理学療法③（演習）
第36回	脊髄損傷における回復期理学療法④（演習）
第37回	脊髄損傷における回復期理学療法⑤（理学療法評価）
第38回	脊髄損傷における回復期理学療法⑥（治療・指導）
第39回	脊髄損傷における回復期理学療法⑦（治療・指導）
第40回	脊髄損傷における回復期理学療法⑧（退院時指導・環境調整）
第41回	脊髄損傷における生活期理学療法①（概要）
第42回	脊髄損傷における生活期理学療法②（演習）
第43回	脊髄損傷における生活期理学療法③（治療・指導）
第44回	脊髄損傷における生活期理学療法④（治療・指導）
第45回	脊髄損傷における理学療法まとめ

評価方法

筆記試験

教科書

神経筋障害理学療法学テキスト（南江堂）、プリント教材

参考図書･文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

解剖・生理・運動学の基礎的知識に加え，２年次の講義理解が重要となります．十分に復習した上で講義に臨んでください．

【専門分野】　　【理学療法学科】

科目名	神経筋疾患理学療法学						
担当講師	長野由紀江　戸来幸恵						
実務経験の概要	長野由紀江　　：理学療法士　医療施設において実務経験を有する. 戸来幸恵　　：理学療法士　医療施設・障がい児施設において実務経験を有する.						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義/実技/グループワーク						

授業概要

難病疾患を呈する症例について、理学療法の目的と過程を学びます.

学修到達目標

1．難病疾患の病態を説明できる.
2．病態、過程に応じた理学療法の目的と評価、プログラムの過程を述べることができる.
3．難病疾患を有した症例について、理学療法推論に基づき、理学療法過程を述べることができる.

授　業　計　画

第1回	パーキンソン病　疾患概要	戸来幸恵
第2回	パーキンソン病　理学療法の目的の特異性	戸来幸恵
第3回	パーキンソン病　理学療法評価	戸来幸恵
第4回	パーキンソン病　病期(障害程度)に対応した理学療法①	戸来幸恵
第5回	パーキンソン病　病期(障害程度)に対応した理学療法②	戸来幸恵
第6回	パーキンソン病　合併症状への対応、環境設定とリスク管理	戸来幸恵
第7回	パーキンソン病　演習①	戸来幸恵
第8回	パーキンソン病　演習②	戸来幸恵
第9回	脊髄小脳変性症の病態　障害	長野由紀江
第10回	脊髄小脳変性症における理学療法評価	長野由紀江
第11回	脊髄小脳変性症における理学療法介入①	長野由紀江
第12回	脊髄小脳変性症における理学療法介入②	長野由紀江
第13回	ケーススタディ　脊髄小脳変性症　病期（障害程度）に応じた理学療法①	長野由紀江
第14回	ケーススタディ　脊髄小脳変性症　病期（障害程度）に応じた理学療法②	長野由紀江
第15回	ケーススタディ　脊髄小脳変性症　病期（障害程度）に応じた理学療法③	長野由紀江
第16回	ケーススタディ　脊髄小脳変性症　病期（障害程度）に応じた理学療法④	長野由紀江
第17回	筋萎縮側索硬化症の病態　障害	長野由紀江
第18回	筋萎縮側索硬化症における理学療法評価	長野由紀江
第19回	筋萎縮側索硬化症における理学療法介入①	長野由紀江
第20回	筋萎縮側索硬化症における理学療法介入②	長野由紀江
第21回	ケーススタディ　筋萎縮側索硬化症　病期（障害程度）に応じた理学療法①	長野由紀江
第22回	ケーススタディ　筋萎縮側索硬化症　病期（障害程度）に応じた理学療法②	長野由紀江
第23回	ケーススタディ　筋萎縮側索硬化症　病期（障害程度）に応じた理学療法③	長野由紀江

評価方法

戸来担当範囲30％（筆記試験）　　長野担当範囲70％（課題レポート）

教科書

神経筋障害理学療法学テキスト改訂第3版(南江堂)　プリント教材

参考図書･文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

神経内科学で学んだことを復習して講義に臨んでください．（戸来）
難病疾患における病態の特性について、理解を深めておいてください．（長野）

【専門分野】　　【理学療法学科】

科目名	発達障害理学療法学						
担当講師	戸来　幸恵						
実務経験の概要	理学療法士　医療施設・障がい児施設において実務経験を有する.						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	w						

授業概要

発達障害に対する理学療法について学修します.

学修到達目標

1．発達障害について理解できる.
2．脳性麻痺に対する理学療法について理解できる.
3．二分脊椎に対する理学療法について理解できる.
4．筋ジストロフィに対する理学療法について理解できる.

授　業　計　画

第1回	発達障害の概要と病態
第2回	小児リハビリテーションについて
第3回	正常運動発達、原始反射および姿勢反射・反応
第4回	脳性麻痺の概念と類型別特徴
第5回	脳性麻痺の二次的障害
第6回	脳性麻痺に対する理学療法評価①
第7回	脳性麻痺に対する理学療法評価②
第8回	脳性麻痺に対する理学療法介入①
第9回	脳性麻痺に対する理学療法介入②
第10回	脳性麻痺に対する理学療法介入③
第11回	脳性麻痺に対する理学療法の考え方
第12回	脳性麻痺に対する生活支援
第13回	二分脊椎の原因と臨床像
第14回	二分脊椎に対する理学療法評価①
第15回	二分脊椎に対する理学療法評価②
第16回	二分脊椎に対する理学療法介入①
第17回	二分脊椎に対する理学療法介入②
第18回	二分脊椎に対する生活支援
第19回	筋ジストロフィの疾患概要と運動機能の経過
第20回	筋ジストロフィに対するライフステージに応じた理学療法評価及び目標設定
第21回	筋ジストロフィに対する機能障害度別理学療法介入①
第22回	筋ジストロフィに対する機能障害度別理学療法介入②
第23回	筋ジストロフィに対する生活支援

評価方法

筆記試験

教科書

小児理学療法テキスト改訂第3版(南江堂)

参考図書･文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

正常発達、原始反射、姿勢反射・反応について十分な復習をしてください.

【専門分野】　　【理学療法学科】

科目名	複合病態理学療法学						
担当講師	佐藤哲哉						
実務経験の概要	理学療法士　医療施設において実務経験をもつ.						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義形式						

授業概要

臨床場面におきましては、単一疾患であっても複数の病態を持ち合わせている場合も多く、本授業ではこれらについて概観していく。
解剖・生理やレントゲン画像、生化学検査の検査値についても提示しながら進めていく。

学修到達目標

理学療法を実践していく上で必要となる知識や留意点等を理解する。

授　業　計　画

第1回	障害のある人の心理過程
第2回	運動療法の基礎①
第3回	運動療法の基礎②
第4回	脳血管疾患の理学療法①
第5回	脳血管疾患の理学療法②
第6回	脳血管疾患の理学療法③
第7回	脳血管疾患の理学療法④
第8回	循環器疾患の理学療法①
第9回	循環器疾患の理学療法②
第10回	呼吸器疾患の理学療法①
第11回	呼吸器疾患の理学療法②
第12回	脊髄損傷の理学療法
第13回	脊髄疾患（脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア）の理学療法
第14回	下肢の骨折、変形性疾患の理学療法①
第15回	下肢の骨折、変形性疾患の理学療法②
第16回	廃用症候群の理学療法
第17回	パーキンソン病の理学療法
第18回	腎機能障害および肝臓機能障害の病態
第19回	脳性麻痺、筋ジストロフィー、重度心身障害の理学療法
第20回	フレイル、ロコモティブシンドロームの理学療法
第21回	物理療法（とくに除痛について）の基礎
第22回	症例紹介
第23回	症例紹介

評価方法

筆記試験

教科書

授業毎に資料を配付

参考図書･文献

標準理学療法学　理学療法学　総論　第4版（第4版第7刷）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義内容や講義の順番は、適宜変更の可能性があります。
（変更がある場合は授業開始時にお知らせいたします）

【専門分野】 【理学療法学科】

科目名	物理療法学Ⅱ						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士，医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する．						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/実技/実習/オムニバス						

授業概要

講義や実技を通し，各種物理療法における治療理論や実施の流れを学修する．

学修到達目標

1．各種物理療法の治療目的や作用，適応・禁忌を説明できる．
2．各種物理療法を模擬患者に対して実施できる．

授　業　計　画

第1回	温熱療法の実際①
第2回	温熱療法の実際②
第3回	寒冷療法の実際①
第4回	寒冷療法の実際②
第5回	水治療法の実際①
第6回	水治療法の実際②
第7回	超音波療法の実際①
第8回	超音波療法の実際②
第9回	電気療法の実際①
第10回	電気療法の実際②
第11回	電気療法の実際③
第12回	光線療法の実際①
第13回	光線療法の実際②
第14回	牽引療法の実際
第15回	各種疾患と物理療法

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材・物理療法学（金原出版）

参考図書･文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

治療の目的と治療効果に対する根拠が必要ですので十分な復習をしてください．

【専門基礎分野】　　【理学療法学科】

科目名	義肢学						
担当講師	菊池賢汰						
実務経験の概要	理学療法士　医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する.						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/演習/実習/グループワーク						

授業概要

1．義肢の構造と機能について学修します.
2．切断者の理学療法について学修します.

学修到達目標

1．切断の原因と切断前後の管理方法について説明できる.
2．各種義肢の構造と特徴、機能について説明できる.
3．義肢装着と切断者に対する理学療法について説明できる.

授　業　計　画

第1回	義肢総論
第2回	切断原因と治療
第3回	切断部位と切断術
第4回	切断者に対する理学療法評価
第5回	断端評価と断端管理
第6回	大腿義足ソケット
第7回	膝継手
第8回	下腿義足ソケット
第9回	足継手
第10回	股義足、膝義足、サイム義足
第11回	異常歩行とアライメント
第12回	切断者に対する立位・歩行練習
第13回	上肢切断と義手
第14回	切断者に対する理学療法（グループワーク）
第15回	切断者に対する理学療法（発表）

評価方法

筆記試験

教科書

義肢装具学テキスト改訂 第３版（南江堂）

参考図書･文献

切断と義肢 第２版（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

切断者に対する理学療法においては、対象者ならびに義肢装具士との連携が重要となります．解剖・生理・運動学の基礎的知識に加え、各領域の理学療法と関連づけて学修するようにしてください.

【専門分野】 【理学療法学科】

科目名	対象者支援学Ⅱ						
担当講師	佐藤浩哉						
実務経験の概要	医学博士，理学療法士，介護支援専門員，病院・介護施設等での実務経験を有する．						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	個人ワーク、グループワーク、グループ発表。症例検討が中心になります。						

授業概要

症例検討を中心に対象者支援の具体的な方法を探っていきます。これといった正解はありませんが、一人一人自分なりの支援方法を探ってみてください。

学修到達目標

個別の対象者の支援方法を考えることができるようになる。

授　業　計　画

第1回	症例検討①
第2回	症例検討①
第3回	症例検討①
第4回	症例検討②
第5回	症例検討②
第6回	症例検討③
第7回	症例検討③
第8回	振り返り
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

評価方法

レポート評価

教科書

随時、プリント配付

参考図書･文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

個別のケースの支援策を探っていきます．宿題も計画していますので，頑張ってください。

【専門分野】　　【理学療法学科】

科目名	地域理学療法学Ⅲ						
担当講師	佐藤浩哉　佐藤卓己　及川忠人						
実務経験の概要	佐藤浩哉　：医学博士，理学療法士，介護支援専門員，病院・介護施設等での実務経験を有する． 佐藤卓己　：理学療法士，病院・介護施設等での実務経験を有する． 及川忠人　：医師　病院にて、リハビリテーション専門医としての実務経験を有する．						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	通年
授業形態	講義/オムニバス						

授業概要

理学療法士として，地域の中での予防活動の考え方とその手段を中心に学修していきます．また，地域の中で活躍されている諸先生方の考え方を講義していただく予定です．地域の仕組みの中での理学療法士の関わりと，世界の地域リハビリテーションについて学修します．

学修到達目標

1．地域の中での予防活動に関し，理学療法士としての関わり方を説明できるようにします．
2．世界における地域リハビリテーションの考え方について説明できる．

授　業　計　画

第1回	特別講義	佐藤卓己
第2回	スマホ脳と運動脳　～　概要説明と紹介	佐藤浩哉
第3回	健康寿命延伸にむけての社会的背景	佐藤浩哉
第4回	健康寿命延伸にむけての考え方	佐藤浩哉
第5回	健康寿命延伸に向けた具体的取り組み	佐藤浩哉
第6回	振り返り	佐藤浩哉
第7回	地域の中での理学療法士	佐藤浩哉
第8回	世界の地域リハビリテーション	佐藤浩哉
第9回	ケーススタディー①	佐藤浩哉
第10回	ケーススタディー①	佐藤浩哉
第11回	ケーススタディー②	佐藤浩哉
第12回	ケーススタディー②	佐藤浩哉
第13回	振り返り	佐藤浩哉
第14回	特別講義	及川忠人
第15回	特別講義	及川忠人

評価方法

筆記試験

教科書

標準理学療法学専門分野 地域理学療法学（医学書院）　　プリント資料

参考図書･文献

理学療法テキスト　地域理学療法学（中山書店）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

近年，理学療法士の予防的活動に対する期待が大きくなっています．予防活動に関しては，社会的な背景の理解と，その考え方が大切になっていきます．尚，講義内容については随時変更になる可能性があります．

【専門分野】　　【理学療法学科】

科目名	評価実習						
担当講師	佐藤浩哉　菊池賢汰　長野由紀江　及川龍彦　戸来幸恵　中嶋奈津子						
実務経験の概要	佐藤浩哉　：医学博士、理学療法士　介護支援専門員、病院・介護施設等での実務経験を有する. 菊池賢汰　：理学療法士　医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する. 長野由紀江　：理学療法士　医療施設において実務経験を有する. 及川龍彦　：理学療法士　医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する. 戸来幸恵　：理学療法士　医療施設・障がい児施設において実務経験を有する. 中嶋奈津子　：理学療法士　医療施設、介護保険施設において実務経験を有する.						
履修年次	3	**単位数**	4	**時間数**	180	**開講時期**	後期
授業形態	実習						

授業概要

評価実習を通じ，理学療法提供の根幹となる理学療法評価を実践し，その結果をもととした臨床推論を経験の上，治療プログラムを立てる.

学修到達目標

1，理学療法における評価について一連の流れを理解できる.
2．理学療法評価の手法を実践できる.
3．理学療法評価の結果をもとに臨床推論の一部を実践できる.
4．臨床実習施設において準職員としての行動を取れる.

授　業　計　画

実習期間　令和6年11月5日（火）から11月28日（木）

実習施設　医療施設

実習内容
1，臨床教育者の指導の下、対象者への理学療法評価を実践する.
2，社会人としての良識を持った行動を行い，スタッフ哉施設職員との連携を実践する.
3，臨床において必要な学修・経験を積み，理学療法技能向上を図る.
4，自身の行動を振り返り，課題がある場合は修正する.

実習後セミナー
1，実習を振り返り，課題・成果を検証することで,今後の学修目標や計画に役立てる.
2，臨床において経験した評価や情報をを下に,対象者のレポート,サマリーを作成し,アセスメント過程を学修する.
3，症例検討を行い，アセスメント能力を深める.

実習前後評価
1，事前評価；評価実習前に実施し，評価実習において必要となる技能の習得状況を確認する.
2，評価実習後評価：評価実習終了後に実施し、評価実習の実施により得られた技能の習得状況を確認する.

評価方法

提出課題（70%）　評価実習後評価（30%）

教科書

参考図書･文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学内での学修に励み、別に発行される「臨地実習のしおり」を熟読したうえで望んでください.